

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200212		
法人名	社会福祉法人 悠仁福祉会		
事業所名	グループホームヴィラ鳳凰(あおい)		
所在地	京都府宇治市宇治里尻36番35		
自己評価作成日	令和元年5月26日	評価結果市町村受理日	令和元年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成31年4月に開設し1年が経過しました。法人敷地内には特養・ショートステイ・デイサービス・居宅介護支援事業所・認知症対応型デイサービス・クリニック・訪問看護・訪問介護が併設されており、認知症の初期から看取りまで支援が出来る法人です。グループホームでは認知症高齢者環境指針PEAP日本版3を活用した環境支援、料理療法を活用した調理を取り入れ支援しています。本年度は外出にも力を入れており地域行事の参加や利用者の希望を聞き実施しています。より一層地域との繋がりが持てるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhouyou_detail_022_kanji=true&jiyouyoCd=2691200212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和元年6月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR奈良線の宇治駅のすぐ西側の一角に、武田病院グループの宇治武田病院と社会福祉法人 悠仁福祉会が運営されている「京都認知症総合センター」があります。京都府・宇治市の支援事業として京都府内で初めて設立されました。特に、宇治市は「認知症の人にやさしいまち・うじ」と宣言しており、行政と医療・福祉機関との連携で「軽度の認知障害をもつ人から重度の認知症の方まで」を地域で支えていこうと活躍の場を広げておられます。京都認知症総合センタークリニック(もの忘れ外来)・特別養護老人ホーム・ケアハウスなど医療・福祉サービスを併設して、特に、認知症対応型デイサービス(定員12名)・グループホーム(2ユニット)・認知症カフェ「カフェほうおう」(常設型)があります。グループホームヴィラ鳳凰では「料理療法」を取り入れたリユマニチュード技法を活用して、認知症の進行予防と共に、一人ひとりの「思い」を大切に支援されています。リビングルームから楽しそうな笑い声が聞かれたことから、日頃の支援の実践状況を伺い知ることができました。悠仁福祉会という大きな器の中で、入居者・家族・地域住民・職員が守られて、安全・安心な時間がゆとりを持って提供されているグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、職員間で理念の共有を図っている。	武田病院グループとしての「理念と基本方針」を全グループで共有し、医療・介護サービス提供に努めている。さらに、社会福祉法人「悠仁福祉会」としても『思いやりの心』を柱として、年度毎に「スローガン」を、所属各事業所の職員で提案し、運営会議で決定している。今年度は「あなたと私、共に創ろう、より良い医療と介護、より良い絆」と表明して、管理職・職員が共に日々のサービス提供につなげている。実践状況は、入居者・利用者などの「穏やかな笑顔」から図り知ることができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	初年度は外出頻度も少なかったが、地域行事(宇治市)の参加に積極的に参加している。宇治市役所のロビーコンサートや宇治文化センターの行事、お寺の祭りにも参加している。	悠仁福祉会として、自治会に地域の一員として入会しているが、事業所の近隣には民家が少なく、日常的に交流となると厳しい事情がある。しかし、宇治橋や平等院・県神社など近くにあり、市役所や文化センターにも近い生活環境にあって、いろいろな地域行事に参加する機会がある。また「京都認知症総合センター」としての役割を持ち、地域住民への貢献を果たすべく認知症カフェ「カフェほうおう」や「リハビリ体操教室」など多方面にわたって活躍している。グループホーム鳳凰としても、悠仁福祉会の一員として活躍の一端を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームだけでなく悠仁福祉会全体で認知症カフェでの取り組みを行い地域住民の方にも参加していただいている。また、地域住民向けの研修の開催を昨年度より行っている。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を2か月に一回、半年に一回を認知症対応型通所介護と合同で行っている。地域との関り、入居者が外に出る機会など意見をいただいている。	会議には、入居者・家族・町内住民・行政担当職員・包括支援センター職員が出席している。グループホームのみで開催する場合と併設のオレンジデイサービスと合同で開催する場合がある。この場合には、デイサービスの利用者と家族が参加している。事業所からは、悠仁福祉会の役職者が出席している。パワーポイントを活用して事業所の取り組みなどを分かり易く説明して理解を得た上で、出席者と意見交換を行っている。地域の情報提供を受けたり、SOS声掛け模擬訓練(認知症の方が無断外出されたことを想定して地域で声掛けをおこなう)に際してのアドバイスがあったり、感染症に関する意見なども出て有意義な会議になっている。	運営推進会議として、地域にかかわる立場の方も参加され有意義な会議になっていると思われます。議事録の書式も分かり易い形式になっていますが、残念ながらいくつかの項目が空欄になっています。例えば、「資料」の箇所も有・無だけではなく、どんな資料かを記載された方が良いのではないのでしょうか？また、決定事項・次回の課題なども空欄になっています。決定事項が無ければ「特に無し」と記載されるのはどうでしょうか？課題の項目の箇所も、報告事項の中に「～検討します」(3月11日)という文言が記載されているので、課題として挙げた方が良いと思われます。次回に検討した結果を報告されることで、会議が継続したものになるでしょう。さらに、出席者との信頼関係も深まると思われますので、提案させていただきます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席案内、本年度から介護相談員の派遣が夏頃から開始予定。	行政の担当職員が、運営推進会議に出席しているため、双方向での情報・意見交換が行われている。さらに、相談・確認事案があれば、何時でも対応して貰える関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育訓練計画書を作成し、施設全体の研修と事業所での勉強会を開催し、身体拘束廃止に関する指針を定めている。また、現在では身体拘束の事例はない。	法人全体で「身体拘束をしないケアの実践」を基本として「身体的拘束等の適正化に関する指針」を福祉介護部で作成している。内容は、グループホーム鳳凰に即した指針になっている。8ページにわたって詳しく記載されており「緊急やむを得ない身体的拘束等に関する説明書」として、やむなく身体的拘束を行う場合の記録様式も整えている。併設各事業所から代表者を出して「安全対策委員会」を設けて、身体拘束等に係る事案を検討したり、職員対象の研修会を行って全職員に周知させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育訓練計画書を作成し、施設全体の研修と事業所での勉強会を開催し、虐待防止についての知識を深めている。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育訓練計画書を作成し、施設全体の研修と事業所での勉強会を開催し、権利擁護についての知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書について説明し、入居までに理解、納得した上で契約を結んでいる。 また、記載内容に変更等あれば、都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見はがきの送付やご意見箱の設置を実施するとともに、年1回の満足度アンケートを実施している。 また、面談時に運営に関するご家族からの質問や意見があった場合は、直ちに上司への報告を行っている。	入居者からの要望などは、日常生活の中でくみ取るように心がけている。家族などからも所時に会話を通して聞き取る様に努めている。また、年度初めに「家族会」を開催したり、運営推進会議に出席してもらって意見・要望などを聞き取る機会にしている。さらに、三か月に一度家族などに「ご意見はがき」を送付したり、年一度アンケート形式で満足度調査をしており、入居者・家族などの「声」をきめ細かく聞き取る機会を設けている。内容は事例に応じて「サービス向上委員会」に挙げて検討し改善につなげている。駐車場のスペースの件について意見が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や運営会議の場で提案できる機会を設けている。また、年2回の人事考課の際に職員と面談する機会を設け意見を聞いている。	定期的開催する会議で、管理職と職員が情報・意見交換を行っている。管理職は、各ユニットでのレクリエーション活動や外出計画などを職員の発想に委ねており、各ユニットのリビングなどの雰囲気特色を出している。管理職と職員との信頼関係で和やかな運営体制が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして人事考課制度を導入している。また、資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるよう支援している。		
13		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練計画書を作成し、定期的に研修を実施している。悠仁福祉会全体でも新たに採用した職員にはプリセプターシップ制度を実施し、早期に職場になれるように、個々のレベルに合わせ指導している。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が開催するグループホーム連絡会に参加し他事業所の職員と交流の機会がある。グループ間での人事交流を実施し、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の不安や思い、意向を取り入れたケアプランの作成や、入居前の情報や本人の様子、状態について職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族等の不安や思い意向を聞き、また、概ね3ヶ月に1回面談を行い、不安なことや意向を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接等を通じ、入居前の情報や本人の様子、状態について職員間で共有し、本人が環境になれていける為のサービスの提供に努めている。 また、必要に応じて訪問歯科も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向や思いを聞き、職員で決めるのではなく選択できる言葉掛けや環境を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時や普段の会話から馴染みの場所や好きだった食べ物など聞き取り、外出企画の検討、また家族も一緒に参加できる行事の提案をしている。医療面でも家族の協力をお願いし共に支えあう関係としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されても以前から交流がある方と面会の機会がある。家族との外出も気兼ねなく行けるよう食事の調整や歩行の介助方法など伝えている。	定期的に友人が来所され、居室や併設されている認知症カフェ「カフェほうおう」でゆっくり過ごされている。入居者や家族などと馴染みの散髪屋に出かける入居者など馴染みの関係が継続できるように努めている。また、訪問理美容の方達との新しい馴染みの関係ができています。理容師の方には、運営推進会議に参加して地域の情報などを提供して貰っている。近在の寺社のお祭りに参加して馴染みの関係や思い出づくりにも努めている。	

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段からフロアで過ごされる方が多く、同じテレビを観たり、歌を歌う時間や、制作活動などしていただいている。また、食事の配膳、下膳なども協力しあいながらされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退居された方はおられない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時間や衣類の選定など本人に聞くようにしている。誕生日には食べたいものの献立にしている。	初回の面談で、本人や家族などから生活歴や心身状況・趣味など聞き取りアセスメントシートに記録している。さらに、入居後の日常生活の様子から情報を追記して「思いや意向」の把握に努めている。個人記録は、センター方式を活用して支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を基に環境を整えている。就寝時間など本人の生活リズムに合わせ声掛けを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行い、その方の出来ることと出来ないことを把握し、職員で情報共有しながら家事等をしていただいている。必要に応じて定期的にかンファレンスを行い支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月に一回のモニタリングの実施を行い、本人、家族の意向をもとに、できる限り実現に向けたケアや支援に努めている。ユニット会議にて利用者の状態について話し合い、必要に応じてカンファレンスを実施することで、課題やケアの方法について検討し介護計画にも反映させている。	日々の生活の様子は、タブレットを活用して速やかに記録できるように工夫している。日常の記録に基づき定期的にユニット会議やカンファレンスで支援状況を確認し、必要に応じて介護計画の見直しにつなげている。また、家族等や医療関係者からの意見等も介護計画に反映させて、現状に即した介護計画を作成している。	

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を残し、必要に応じて期間を定め申し送りをしている。記録からカンファレンスにつなげ支援に繋げている。モニタリング時に普段の様子や提案などさせていただき介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全に過ごしていただけるよう靴や歩行器の介護用品の提案、また、訪問歯科の案内など家族からだけでなく事業所からも提案させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村が開催している行事の参加や買い物など地域に出て行けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所内での訪問診療だけでなく、かかりつけ医の継続などその方の希望に沿った支援を行っている。また、隣接するクリニックと医療連携を行い日々の健康管理も行っている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの希望を尊重している。通院に家族などが付き添われる場合には、職員も付き添って状況を共有するように努めている。併設のクリニックで健康管理を委ねている入居者も多く、医療面でも安心な支援が行われている。希望に応じて訪問歯科の受診が可能になっている。高血圧など食事管理が必要な場合には、医師と管理栄養士との連携で治療食が提供されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、隣接するクリニックと連絡をとり、健康状態の把握に努め、相談できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要となった場合は定期的に家人や医療機関とも連携し相談に努めている。また、医師と家族との話合いの場にも同席させていただき支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは現段階では行わない方針である。法人全体で支援できるよう取り組んでいる。入居される時には方針を伝え安心して生活出来るよう努めている。	重度化や終末期に向けた支援は現在のところ、当該事業所では行わない方針を整備している。契約書に「退去についての協議する場合のある契約者の心身の状況」として細かく記載して契約時に説明している。敷地内に特別養護老人ホームなどを併設しているが「その人の心身状態に応じて安全・安心な場所(施設)」を提供出来るように法人全体で協働して取り組んでいる。	

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時の手順書を作成し周知している。また、普通救命講習も開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での災害対策を行い、避難訓練に参加している。地域と共同で開催も視野に入れている。	災害対策は、法人全体で取り組んでおり、避難訓練も合同で実施している。グループホームの入居者も職員と共に階段を使つての避難訓練を行っている。宇治川が傍にあり、水害も視野に入れて災害対策を考えている。台風や地震に対するマニュアルも作成している。備蓄に関しては必要品を確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で定期的に研修を行っている。また、事業所内でも接遇について研修を行っている。	武田病院グループの理念の柱に「思いやりの心」を表明している通り、法人全体で一人ひとりを敬い、その人の思いを大切にしたい支援に取り組んでいる。定期的に研修を行い、全職員に周知させている。特に、言葉づかいには留意しプライドを傷つけないように、プライバシーを損ねないように配慮している。一手法として「ユマニチュード技法」を取り入れている。個人情報の取り扱いに関しても規則を整備して写真などの取り扱いにも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思決定できるよう言葉掛けを行い、目で見て判断できる工夫など関り方にも注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者本位だけで決めるのではなく、ご本人がどのように過ごしたいかを踏まえカンファレンスなど話し合いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選定が出来るよう関りを持っている。また、ご家族とも相談し依頼している。理美容の声掛けや毛染めなど定期的に声を掛けている。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理療法を取り入れ、楽しみから質の向上に努めている。誕生日には好きな献立にしたり意向も聞いている。配膳や下膳、食器洗いなど家事も一緒に行っている。	日常的には、法人の管理栄養士が献立をたてて提供しているが、お誕生日に当たる入居者があれば、好きな献立を聞き取って提供している。「お誕生日特別メニュー」として全員で祝っている。ベランダでは花壇を活用して「家庭菜園」を楽しんでいる。土を耕し、なす・きゅうり・トマトなど収穫して食卓にのせている。さらに、認知症の進行予防の一環として「料理療法」を実践している。赤い帽子をかぶって一生懸命に料理し盛り付けをしている入居者の写真がブログで紹介されている。食材を育て・調理し・食べる楽しみが協働作業として行われている。特筆すべきは、敷地内で取れたお茶の葉をいぶしてもんでおいしいお茶に仕上げている。そして、手作りの「お茶」を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作り栄養管理を行っている。食事摂取や水分量の管理、また、自室にいつでも飲めるお茶を毎日配膳するなど、その方にあった支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要時介助している。入歯の調整やケアは個別で訪問歯科の協力していただいている方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を行い把握している。また、便秘がある方は下剤を調整したり隣接のクリニックと相談している。	排泄パターンは記録により把握し、排泄の自立支援に努めているが、全体に介護度が低く自立している方が多い。布パンツにパット(小)の併用になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整だけでなく、おやつ提供時に寒天や食物繊維の多い食材を使うなど工夫している。米飯には大麦を入れて炊くなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定を行い、入浴の声掛けを行い意向確認をしている。また、回数を増やしたい希望にも沿っている。	入浴を楽しんで貰うことを基本として、入浴前にバイタルチェックを行い、本人の気分を考慮しながら入浴を決めている。週2回の入浴を目安にしているが本人の希望があれば応じている。入浴剤は特に使用していないが「ゆず湯」は楽しんでもらっている。	

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休憩が出来るよう声掛けを行い、生活リズムにも注意している。空調管理や寝具も季節に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月の訪問診療や受診時にかかりつけ医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの野菜を育てたり制作活動、歌等の楽しみが持てる工夫をしている。また、その方が歩んで来られた生活から個別に支援が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、地域行事のコンサートなど声を掛けさせていただいている。また、運営推進会議でも意見をいただき参考にしている。	日常的に外出の機会としては充分と言えないが、併設の「カフェほうおう」に行って地域の方との交流の機会を持っている。また、近在には寺社が多くお祭りに出かけたり、市役所でコンサートや植物園などに出かけて楽しい時間を共有している。城南宮に初詣に出かけたり花見など季節のお出かけも喜ばれている。今年度は、外出の機会を増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの預かりはある。ご自身の物は一緒に買いに行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族だけでなくお友達など関係が継続できるように次回の訪問日の確認など、支援している。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に掃除を一緒に行い空調管理など環境にも注意している。テレビの音量や音にも注意しさまざまな音が出ていない環境を作っている。	開設1年で建物も新しく全体にゆったりとして清潔感がある。リビングダイニングも適度な広さがあり、テーブルやソファなど適宜配置しており、入居者はそれぞれ自分の場所で落ち着いた雰囲気ですごしている。窓も大きく開放感があり、リビングに続くオープンキッチンからは生活感がある。室内の装飾も華美にならず手作りのカレンダーなどで季節を感じるように工夫している。食後にテーブルを囲んで七夕飾りの短冊を作りながら、楽しそうな笑い声も聞かれる風景があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の空間では一緒に作業されたりテレビを観たりとセッティングすることで入居者同士の会話が生まれている。また一人で過ごしたい場合は居室やリビングのソファにて過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用されていたタンスやテレビ、写真などを持参いただいている。	居室は、タンスや小物を持参して使いやすいように配置している。仏壇を置いている入居者もあり、それぞれ「その人らしい雰囲気」が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内標識は目線の高さに合わせている。また、分かりにくい場所には分かりやすい目印をつけるなど工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200212		
法人名	社会福祉法人 悠仁福祉会		
事業所名	グループホームヴィラ鳳凰(ほたる)		
所在地	京都府宇治市宇治里尻36番35		
自己評価作成日	令和元年5月26日	評価結果市町村受理日	令和元年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成31年4月に開設1年が経過しました。法人敷地内には特養・ショートステイ・デイサービス・居宅介護支援事業所・認知症対応型デイサービス・クリニック・訪問看護・訪問介護が併設されており、認知症の初期から看取りまで支援が出来る法人です。
グループホームでは認知症高齢者環境指針PEAP日本版3を活用した環境支援、料理療法を活用した調理を取り入れ支援しています。
本年度は外出にも力を入れており地域行事の参加や利用者の希望を聞き実施しています。より一層地域との繋がりが持てるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_hani=true&ilayovvoCd=2691200212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和元年6月18日		

(あおい)と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、職員間で理念の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	初年度は外出頻度も少なかったが、地域行事(宇治市)の参加に積極的に参加している。宇治市役所のロビーコンサートや宇治文化センターの行事、お寺の祭りにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームだけでなく悠仁福祉会全体で認知症カフェでの取り組みを行い地域住民の方にも参加していただいている。また、地域住民向けの研修の開催を昨年度より行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を2か月に一回、半年に一回を認知症対応型通所介護と合同で行っている。地域との関り、入居者が外に出る機会など意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席案内、本年度から介護相談員の派遣が夏頃から開始予定。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育訓練計画書を作成し、施設全体の研修と事業所での勉強会を開催し、身体拘束廃止に関する指針を定めている。また、現在では身体拘束の事例はない。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育訓練計画書を作成し、施設全体の研修と事業所での勉強会を開催し、虐待防止についての知識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育訓練計画書を作成し、施設全体の研修と事業所での勉強会を開催し、権利擁護についての知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書について説明し、入居までに理解、納得した上で契約を結んでいる。 また、記載内容に変更等あれば、都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見はがきの送付やご意見箱の設置を実施するとともに、年1回の満足度アンケートを実施している。 また、面談時に運営に関するご家族からの質問や意見があった場合は、直ちに上司への報告を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や運営会議の場で提案できる機会を設けている。また、年2回の人事考課の際に職員と面談する機会を設け意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして人事考課制度を導入している。また、資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練計画書を作成し、定期的に研修を実施している。悠仁福祉会全体でも新たに採用した職員にはプリセプターシップ制度を実施し、早期に職場になれるように、個々のレベルに合わせ指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が開催するグループホーム連絡会に参加し他事業所の職員と交流の機会がある。グループ間での人事交流を実施し、サービスの質の向上に努めている。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の不安や思い、意向を取り入れたケアプランの作成や、入居前の情報や本人の様子、状態について職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族等の不安や思い意向を聞き、また、概ね3ヶ月に1回面談を行い、不安なことや意向を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接等を通じ、入居前の情報や本人の様子、状態について職員間で共有し、本人が環境になれていける為のサービスの提供に努めている。 また、必要に応じて訪問歯科も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向や思いを聞き、職員で決めるのではなく選択できる言葉掛けや環境を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時や普段の会話から馴染みの場所や好きだった食べ物など聞き取り、外出企画の検討、また家族も一緒に参加できる行事の提案をしている。医療面でも家族の協力をお願いし共に支えあう関係としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居されても以前から交流がある方と面会の機会がある。家族との外出も気兼ねなく行けるよう 食事の調整や歩行の介助方法など伝えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段からフロアで過ごされる方が多く、同じテレビを観たり、歌を歌う時間や、制作活動などしていただいている。また、食事の配膳、下膳なども協力しあいながらされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退居された方はおられない。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時間や衣類の選定など本人に聞くようにしている。誕生日には食べたいものの献立にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を基に環境を整えている。就寝時間など本人の生活リズムに合わせ声掛けを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行い、その方の出来ることと出来ないことを把握し、職員で情報共有しながら家事等をしていただいている。必要に応じて定期的にかンファレンスを行い支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月に一回のモニタリングの実施を行い、本人、家族の意向をもとに、できる限り実現に向けたケアや支援に努めている。ユニット会議にて利用者の状態について話し合い、必要に応じてカンファレンスを実施することで、課題やケアの方法について検討し介護計画にも反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を残し、必要に応じて期間を定め申し送りをしている。記録からカンファレンスにつなげ支援に繋げている。モニタリング時に普段の様子や提案などさせていただき介護計画に反映させている。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全に過ごしていただけるよう靴や歩行器の介護用品の提案、また、訪問歯科の案内など家族からだけでなく事業所からも提案させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村が開催している行事の参加や買い物など地域に出て行けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所内での訪問診療だけでなく、かかりつけ医の継続などその方の希望に沿った支援を行っている。また、隣接するクリニックと医療連携を行い日々の健康管理も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、隣接するクリニックと連絡をとり、健康状態の把握に努め、相談できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は定期的に家人や医療機関とも連携し相談に努めている。また、医師と家族との話し合いの場にも同席させていただき支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは現段階では行わない方針である。法人全体で支援できるよう取り組んでいる。入居される時には方針を伝え安心して生活出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時の手順書を作成し周知している。また、普通救命講習も開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での災害対策を行い、避難訓練に参加している。地域と共同で開催も視野に入れている。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で定期的に研修を行っている。また、事業所内でも接遇について研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思決定できるよう言葉掛けを行い、目で見て判断できる工夫など関り方にも注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者本位だけで決めるのではなく、ご本人がどのように過ごしたいかを踏まえカンファレンスなど話し合いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選定が出来るよう関りを持っている。また、ご家族とも相談し依頼している。理美容の声掛けや毛染めなど定期的に声を掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理療法を取り入れ、楽しみから質の向上に努めている。誕生日には好きな献立にしたり意向も聞いている。配膳や下膳、食器洗いなど家事も一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作り栄養管理を行っている。食事摂取や水分量の管理、また、自室にいつでも飲めるお茶を毎日配膳するなど、その方にあった支援を行っている。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要時介助している。 入歯の調整やケアは個別で訪問歯科のに協力していただいている方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を行い把握している。また、便秘がある方は下剤を調整したり隣接のクリニックと相談している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整だけでなく、おやつ提供時に寒天や食物繊維の多い食材を使うなど工夫している。 米飯には大麦を入れて炊くなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定を行い、入浴の声掛けを行い意向確認をしている。また、回数を増やしたい希望にも沿っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休憩が出来るよう声掛けを行い、生活リズムにも注意している。空調管理や寝具も季節に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月の訪問診療や受診時にかかりつけ医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの野菜を育てたり制作活動、歌等の楽しみが持てる工夫をしている。また、その方が歩んで来られた生活から個別に支援が出来るよう努めている。		

京都府 グループホーム ヴィラ鳳凰(ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、地域行事のコンサートなど声を掛けさせていただいている。また、運営推進会議でも意見をいただき参考にしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの預かりはある。ご自身の物は一緒に買いに行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族だけでなくお友達など関係が継続できるように次回の訪問日の確認など、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に掃除を一緒に行い空調管理など環境にも注意している。テレビの音量や音にも注意しさまざまな音が出ていない環境を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の空間では一緒に作業されたりテレビを観たりとセッティングすることで入居者同士の会話が生まれている。また一人で過ごしたい場合は居室やリビングのソファにて過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用されていたタンスやテレビ、写真などを持参いただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内標識は目線の高さに合わせている。また、分かりにくい場所には分かりやすい目印をつけるなど工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議を活かした取り組みについて、参加できなかった方が閲覧した場合、伝わりにくい。	活動報告が閲覧の場合でも分かりやすく伝わる。	運営推進会議を活かした取り組みについて、参加されなかったご家族にも活動が分かりやすいように記載内容の充実や添付資料を基に伝わりやすい閲覧とする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。